

こんな災害があった

# スクリューに 指が巻き込まれた

## Case

被災者はスーパーマーケットのアルバイトをしていた。当日、主任と一緒に調理場で挽き肉をつくる作業をしていた。

挽き肉をつくるミートチョッパーは、ホッパーに肉の塊かたまりを入れ、それを回転するスクリューで裁断して押し出すことで、挽き肉をつくる構造であった。

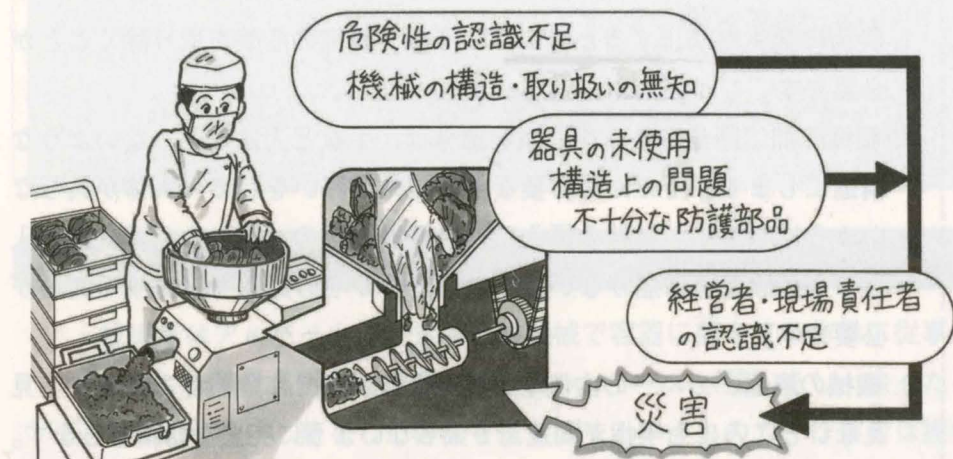
被害者はホッパーに肉の塊を入れたが、ねばねばしているためホッパーに詰まって底のスクリューに噛み込まなかった。そこで、被災者が素手でホッパーに詰まった肉をスクリュー方向へ押し込んだところ、スクリューに指を巻き込まれて切断した。

## なぜ、この災害が発生したか

この災害が発生した原因は次のことが考えられます。

1. 指を落とす危険があるスクリューは、ホッパーの下部で機械の内部にあり、外からは見えないため被害者はこの機械が危険であるということがわからなかった。
2. 被害者は、アルバイトであったため雑用的に仕事をしていたので、ホッパーの危険性や詰まった時の処理の仕方などについて、教育を受けていませんでした。
3. そのため、肉が詰まった時は、定められた押し棒を使用することになっていたが、それを使用せず、素手で押し込んだ。
4. ミートチョッパーのスクリュー部分は指が入ると切断する危険な部分なのに、ホッパーから手を入れた時に指が届く構造になっていました。一応、ガードは付いていましたが、その開口部の寸法が大きく、作業

詰まった肉を素手で押し込み、スクリューに指を巻き込まれる



作業者の手が入る寸法だったのです。

5. この機械による災害は、指先を切断するという重大な結果をもたらす危険があることについて被害者はもちろん、作業を指示した主任も経営者も認識していませんでした。この危険に対する認識不足が安全装置をおろそかにした原因と考えられます。

## この災害を防止するために

1. 作業責任者は、ミートチョッパーがスクリューの構造、危険性、取扱方法、詰まりの処理、修理、調整、手入れなどの取り扱い過程でケガをする可能性のある事項について作業者に教育しなければなりません。アルバイトでも正社員でも、その作業をする時の危険は同じです。
2. 毎日その作業を行うか、時々手伝いでその作業をするかは、全く関係がありません。ミートチョッパーを使うすべての作業者は、その危険性を知らなければなりません。そのために教育を受けた者だけが、この作業に就くことが許されるようにします。
3. 押し棒など必要な道具は機械にぶら下げるなど、機械と一体にして、必要な時は探さずに使用できるようにします。
4. 作業者は機械の裏側、カバーの内側など、外から見えない部分に手を入れてはいけない、ということを知らなければなりません。

